

新たな高速道路ネットワークの整備と機能向上 (5カ年計画:2011-2015年度)

国民生活を豊かにし、地域の経済活動を支える重要な社会資本である高速道路。道路整備は、輸送コストを下げ、交通事故を減らすなどの直接的なメリットだけでなく、バランスのとれた地域社会の発展をもたらします。私たちは、高速道路ネットワークを計画的かつ着実に整備し、機能向上を図るという使命をしっかりと果たしていきます。

高速道路ネットワークの整備

NEXCO西日本は、高速道路ネットワークを各地域でつなぐことにより、地域間の連携や交流促進に貢献してきました。2011年から始まる新たな5カ年計画においても、高速道路保有債務返済機構と締結した協定に基づき、これまでに培った技術とノウハウを活用して高速道路ネットワークの整備を着実に進めています。

2011~2015年度 開通予定

道路名	区間(IC・JCT名は仮称を含む)	延長(km)	完成年度(努力目標)
舞鶴若狭自動車道	小浜西~小浜	11	2011
京都第二外環状道路	沓掛~大山崎JCT	10	2012
四国横断自動車道	徳島~徳島JCT~鳴門JCT	11	2014
東九州自動車道	都農~高鍋	13	2012
	刈田北九州空港~行橋	9	2013
	行橋~豊津	7	2014
	日向~都農	20	2014(2013)
合計	椎田南~宇佐	28	2016(2014)
合計		109	

※完成年度は、機構との協定上の年度を表す。()内は会社努力目標。

ネットワークの機能向上

供用後の高速道路の利用価値を高め、地域の方々やお客さまの安全・安心と利便性を一層向上するため、四車線化工事を進めています。また、インターチェンジ間隔の平均を欧米並みの5kmに改善することを念頭に、スマートインターチェンジ*の整備に取り組んでいます。

※高速道路の本線やサービスエリア・パーキングエリア、バスストップから乗り降りできるように設置されるETC専用のインターチェンジ

四車線化工事の予定

道路名	区間(IC・JCT名は仮称を含む)	延長(km)	完成年度
阪和自動車道	海南~有田	10	2011
米子自動車道	久世~上野PA	4	2011

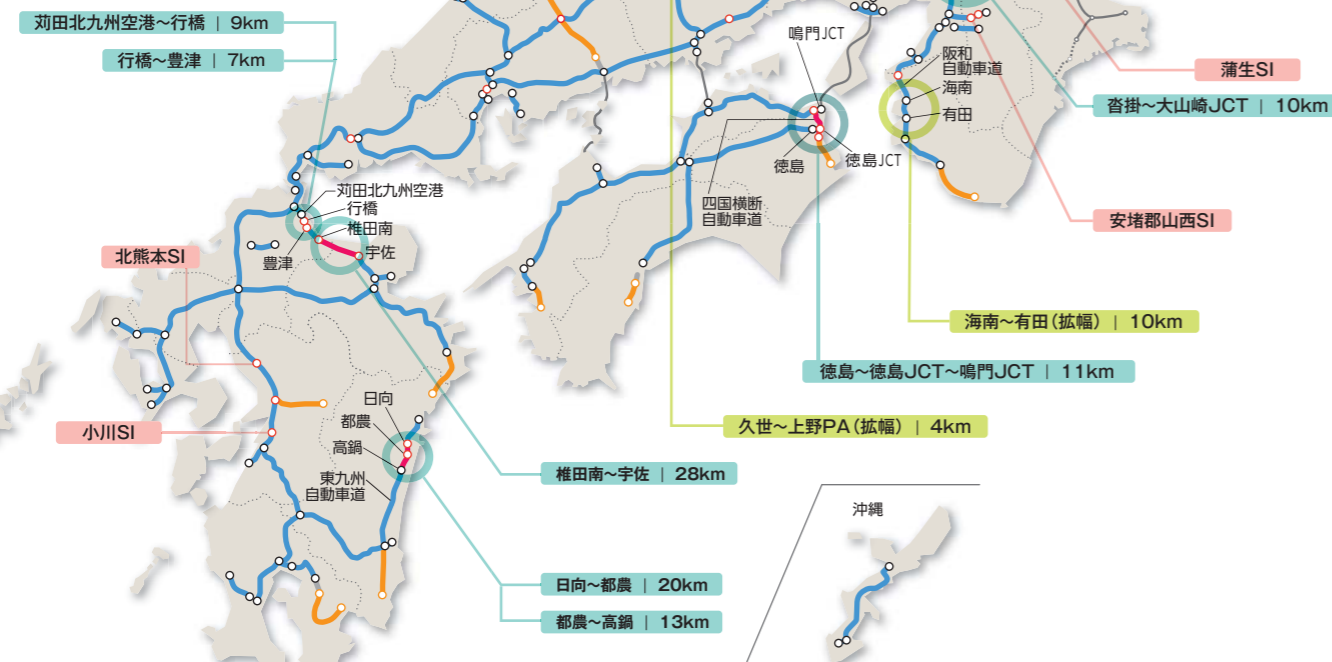
スマートインターチェンジの整備予定

道路名	区間(IC・JCT名は仮称を含む)	完成年度
名神高速道路	蒲生スマートIC	2013
西名阪自動車道	安堵郡山西スマートIC	2013
中国自動車道	夢前スマートIC	2015
米子自動車道	大山高原スマートIC	2011
九州自動車道	小川BSスマートIC	2013
九州自動車道	北熊本スマートIC	2015

高速道路凡例 (2011年3月31日現在)

- 営業中
- 事業中*1
- 事業中*1 (新直轄方式*2で整備する区間)
- その他の道路

*1 事業中のインターチェンジ等の名称は仮称
 *2 国土交通大臣が施行主体となって高速道路を整備する方式
 *3 標記上の略称
 JCT:ジャンクション SI:スマートインターチェンジ BS:バスストップ



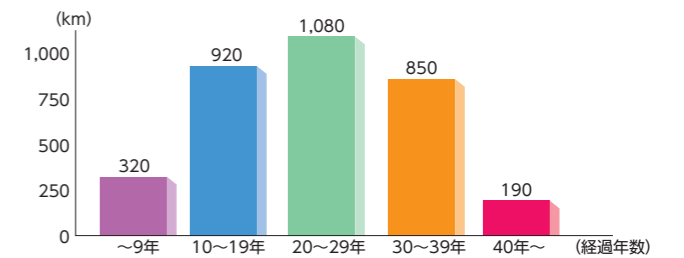
予防保全の考えに基づく 構造物の老朽化対策

日本で最初の高速道路、名神高速道路 栗東~尼崎間が開通して47年が経過しました。この間、高速道路ネットワークは全国各地を結び、経済の発展を支えてきましたが、一方で橋梁やトンネルの老朽化が確実に進行していることから、効率的な点検と集中的な補修・補強工事が急務となっています。今後もお客さまに安全・安心にご利用いただくため、さまざまな保全対策を実施していきます。

高齢化が進む高速道路の状況

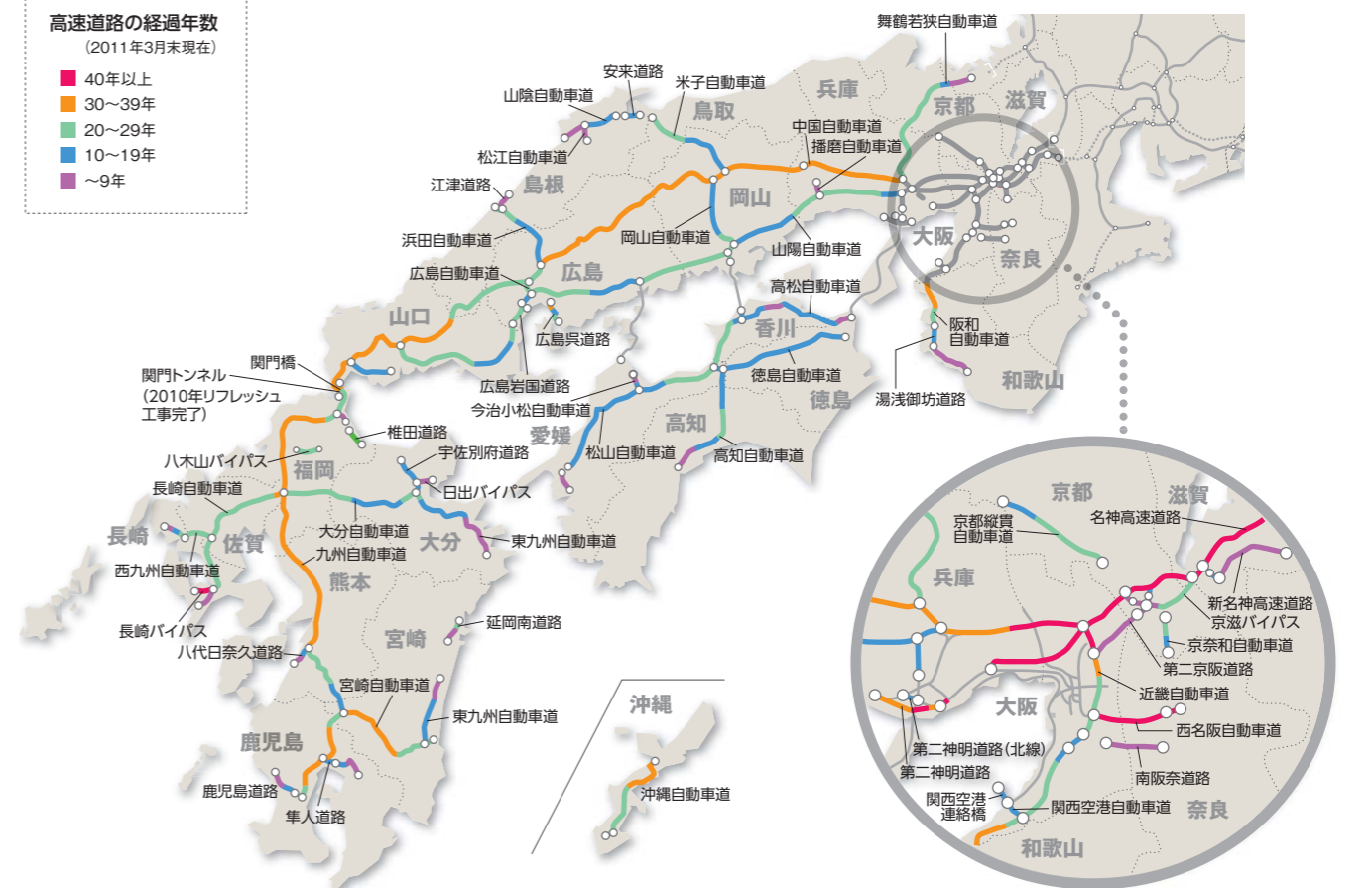
NEXCO西日本が管理する高速道路のうち、供用後40年を経過する名神高速道路、中国自動車道をはじめ、供用後30年を経過する道路が全体の3割を占めています。こうした高齢化する高速道路ネットワークに対し適切な保全対策を進めることで、長期にわたってご利用いただけるよう事業を推進しています。

高速道路の経過年数 (2011年3月末現在)



高速道路の経過年数 (2011年3月末現在)

- 40年以上
- 30~39年
- 20~29年
- 10~19年
- ~9年



▶床版取り換えによる橋梁の高耐久化

橋梁の損傷が著しい場合には、ライフサイクルコスト最小化を目指して高耐久化の抜本対策(床版*の全面取り換え)を行います。九州自動車道向佐野橋では、片車線ごとの切り直し工事により、プレキャストPC床版を活用した大規模なフレッシュ工事を実施しました。



※路面を支えるコンクリート版

▶はく落防止対策

老朽化の進行とともに、橋梁やトンネルからコンクリート片がはがれ落ちる事象が発生しています。第三者への被害が想定される箇所において繊維シートを貼ったり、はく落防止ネットを設置したりして、はく落防止に努めています。また、赤外線カメラを使った効率的な点検を行うなど、予防保全に努めています。

▶耐震性の向上

地震などの自然災害が発生した場合、高速道路は救援活動に重要な役割を担う道路として位置付けられています。落橋などの甚大な被害を防ぎ、緊急輸送路としての役割を果たすため、橋脚の耐震補強を積極的に進めています。